



週刊さんいん学間

第453号

紙面ガイド

まなぶん2

- おうちで英語
- ホントの恐竜
- きらめく星

まなぶん3

- 野菜ラボ
- ブックトーク
- ことばの宝物

まなぶん4

- まなぶんクロス
- 投稿ひろば
- 小学生学力講座

開けば驚き発見あふれ出す

ヒット図鑑制作の舞台裏

みんなが手にしたことがある図鑑は、どのように作られているのかな？ その舞台裏について、シリーズ全体で発行部数150万部をこえるヒット図鑑「くらべる図鑑」などを手がけた小学館の図鑑編集長、廣野篤さん(49)に聞きました。

「日常は驚きや発見に満ちています。楽しみながら世界を広げてもらえるようなものを作りたいです」と話しています。

小学館・廣野篤編集長に聞く

図鑑を作る仕事にたずさわり20年以上になります。大切にしているのはわくわくする気持ちを形にすること。「くらべる図鑑」では、動物や乗り物などのジャンルを分けず、あらゆるものを速さや高さなどでくらべて、写真とイラストで紹介しました。例えば、ダチョウの卵とニワトリの卵で目玉焼きを作った大きさの違いを見せるなど、驚きを実感してもらうことで、知る楽しさを伝えたかったのです。

図鑑は一人の力ではできませ



自ら手がけた図鑑を手にする小学館の図鑑編集長、廣野篤さん

ん。ページの下書きやイラストをえがく人、写真を撮る人、内容に誤りがないかどうか確認す

わくわくする気持ち大切に取材

る人など、関わるのは200人ぐらい。完成までに2～3年かかることもあります。

時には自分で取材や撮影にも出かけます。「イモムシとケムシ」では、日本最大級のガ「ヨナグニサン」の幼虫を撮影するため、日本の一番西にある与那国島で4日間、炎天下で探し続けて、ようやく1匹を見つけました。「分解する図鑑」では、えんぴつつけずりやカメラなど身近なものが動く仕組みを伝えようと、分解した機械や道具の数は50種類をこえます。



小学館の図鑑編集部で仕事をする編集長の廣野さん(手前)＝5月、東京都千代田区



沖縄の与那国島で日本最大級のガ「ヨナグニサン」の幼虫を手にする廣野さん

大変だけれど、興味があることをつきつめるのはとても楽しい。インターネットで調べ物をすることは多いかもしれませんが、いろいろな情報が自然と目に入り、興味を持ちやすくなるのが図鑑の良さです。開けば発見があふれてくる。そんな人生を豊かにしてくれるような図鑑を、これからも作り続けたいです。

ひろの・あつし 1973年、千葉県出身。「くらべる図鑑」シリーズをはじめ「鉄道」など多くの図鑑を手がけてきました。天気が良いと、自然観察のため出社しないことがあります。

まなぶんクイズ

(7月4日付紙面から出題)

バスケットボール男子Bリーグは3日、2023～24年シーズンの開幕節日程を発表。1部(B1)の島根スサノオマジックは10月7、8の両日にホームの松江市で〇〇チームと対戦します。開幕戦の相手は？

- ①広島(西地区) ②秋田(東地区)
③三河(中地区)

空からみたニッポン



イラスト 黒澤達矢

<ヒント> 建物の中には高さ15mの仏像があります

(クイズとイラストの答えはまなぶん4面)

経済

目が不自由な視覚障害者の移動を助けようと、日本の技術者たちが開発するスーツケース型の誘導ロボット「A1スーツケース」が3月に、海外では初めてとなる公開での走行テストをアメリカで行いました。人工知能(AI)を使ったこの技術が広まれば、目が見えなくても、今より簡単に一人で世界中を飛び回ることができるかもしれません。

日本発AIかばん世界が注目



「A1スーツケース」を開発した浅川智恵子さん(右)3月、アメリカ・アナハイム(共同)

開発したのはアメリカIBMのトップ技術者で「日本科学未来館」の館長も務める浅川智恵子さんです。14歳の時に失明した浅川さんは、行き先まで自動で案内してくれるスーツケース型ロボットを思いつきました。

多くの人が使うようになる「実用化」まではたくさんのテストをくり返す必要があります。今回のテストでは、参加者から「次はディズニーランドで使いたい」などと、大きな関心が寄せられました。

韓国の格安航空会社・エアソウルが10月25日、運休中の国際定期便・米子ーソウル便を週3往復便で再開させることになりました。日本と韓国の関係悪化によって、韓国人の搭乗者数が大きく減ったのを受けて2019年10月に運休して以来、4年ぶりに空の便が復活することになりました。

3日午後、ソウル市内で鳥取県の平井伸治知事と面談したエアソウルの趙鎮満代表理事が明らかにし

米子ソウル便10月25日から再開



取県国際観光誘客課提供

米子市市内で会談した鳥取県の平井伸治知事(左)とエアソウルの趙鎮満代表理事(右)＝3日(鳥取県国際観光誘客課提供)

空港を出発し、同2時50分に米子空港に到着。復路は同3時50分に米子を出発し、同5時20分に仁川に到着します。運休前と同じ195人乗りの飛行機を使います。

鳥取県国際観光誘客課によると、面談でエアソウル側からは、日韓関係の改善や新型コロナウイルスの水際対策の緩和によって運航再開の環境が整った、との判断が示されました。

社会

秋・石見空港(益田市内田町)の開港30周年記念式典が2日、空港ターミナルビルでありました。島根県と周辺の市や町、全日本空輸(ANA)の関係者が、1日2便運航が続く羽田便の維持と発展に向けて決意を新たにしました。

開港は1993年7月2日で、これまで延べ327万人が利用。当初は羽田、大阪便各1日1便の運航でした。このうち羽田便は97年に1日2便、2002

秋・石見空港で開港30周年式典



未来を担う子どもたちに、飛行機の本機模型を手渡す関係者＝2日、益田市内田町の秋・石見空港

年には1便となり、14年から国土交通省の地方路線の利用者を増やす政策コンテスト枠の配分を受けて、再び2便化されました。11年に休止された大阪便は夏季の限定運航となっています。

記念式典では丸山達也知事が「より多くの方に愛され、利用されるよう路線の維持発展に尽くす」とあいさつ。空港発展のバトンをつなごうと、益田市内の小学生6人に飛行機型の模型が手渡されました。

年には1便となり、14年から国土交通省の地方路線の利用者を増やす政策コンテスト枠の配分を受けて、再び2便化されました。11年に休止された大阪便は夏季の限定運航となっています。

タイニッポン



本来の姿を知る

札幌市の円山動物園で長年愛されてきたオスのカバ「ドン」が、このほど天国に旅立ったよ。2歳で茨城県にある動物園から引越してきて以来、50年以上生きたんだ。

カバといえば、口を大きく開けてえさを食べる姿が人気だけど、開けられる角度はなんと150度。実は走るのが速いという一面もあるよ。生き物本来の姿を知ると、興味がわいてくるね。

山陰中央新報製作センター見学施設

山陰中央新報の印刷している「山陰中央新報製作センター」に併設され、大型ディスプレイで映像を見られる視聴覚ホール、過去の大きなニュースを伝えた紙面をはじめとした各種展示コーナーなどがあります。月曜日から金曜日まで(祝日を除く)見学を受け付けています。



重要ニュース紙面展示コーナー

山陰中央新報や前身の新聞は、140年以上にわたって国内外のさまざまな出来事や出来事、竹下登首相の誕生、くにびき国体、山陰地方を襲った災害などを伝えた紙面を展示しています。



カラー印刷の輪転機模型

カラー印刷の仕組みを輪転機の模型で解説します。模型は高さ1.8mで、4色を印刷するローラーが上下に並んでいます。ローラーの回転に合わせて紙が動き、4色を重ねて印刷する仕組みを理解してもらいます。

主な展示・設備

- 1階
- 創刊号パネル
 - 記念日新聞コーナー
 - 重要ニュース紙面
 - 活字など印刷資料
 - 巻き取り紙
 - 多目的ホール
 - 活版印刷機
- 2階
- さんさんホール(188号ディスプレイ設置)
 - 組版体験コーナー
 - 輪転機模型
 - インキ

時間 月一金曜日(祝日除く) 午前10時～午後2時半
人数 1日2団体まで 1回の来館者は40人まで
内容 館内見学、新聞教室
予約 電話で受け付け(平日午前9時～午後5時)

予約・問い合わせ先
山陰中央新報製作センター
(出雲市斐川町上原1318)
電話 0853(73)9331